

顎が外れる

高齢者は顎(かく)関節脱臼(だつじゅう)を起こしやすい。加齢とともに顎の関節の縮まりがなくなるためだが、一度起こると再発を繰り返すことがある。注意すべきことを、昭和大学歯学部

(東京都)口腔(こうくわう)外科の新谷悟教授に聞いた。▽気付きにくい顎関節脱臼は、よく言う「顎

が外れる」という状態だ。どんな年齢層にも見られるが、特にお年寄りに多い。「顎の関節が外れると痛みが生じ、受け口になって前歯

で食べ物をかめません。ただ、口は大体2センチほどは開くので、高齢者は自覚しにくいようです。また、総入れ歯だと家族の人も気付きにくく、見

る。▽食べ方に注意 頻繁に再発を繰り返したり陳旧性になったりすると、日常生活に大きく影響するばかりだ。「前歯でかめない、口をほんやりと開いている、あるいは総入れ歯でいつもより入れ歯が外れるといったことに気付いたときは、顎関節脱臼の可能性があるので、早めに口腔外科を受診すべきです」

初期なら

装具療法で改善

逃しやすいです」

偶然、関節が元に戻るケースもあるが、通常は自分では戻せない。そのまま放

りか、治療でも手術が必要になる。「初期の段階なら、顎の関節を元に戻して口を開きにく

自分では戻せず再発も

置していると陳旧性といつて、関節が外れたまま固まってしまつこともある。また、偶然元に戻っても、再発を繰り返しやすいくな

帯(じんたい)などが衰えて



チンキャップによる治療(新谷悟昭和大歯学部口腔外科教授提供)(一部画像を処理しています)

昭和大学歯科病棟の所在地は、郵便番号145-8515 東京都大田区北千束2-1-1。電話03(3787)1151(代表)。

時事)